

学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時：平成27年7月21日(火) 11:00～11:45

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス事務局棟4階)

発表事項

1. トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラムに3名の学生が採択されました
2. 山口昌樹准教授が国際学会から Best Paper Award を受賞
3. 農学部生産機械学研究室が「FOOMA JAPAN 2015 アカデミックプラザ」で表彰されました
4. 地域で活躍する学生サークル紹介
～山形大学フリーペーパーサークル Y-ai！～
5. 「多様で有能な教員」を地域の皆さまにご紹介します
6. 学生の観光提案が観光プランとして商品化されました
7. 県教委との連携のもと5学部でアカデミック・キャンプ2015 Summer開催！
8. 復興の想いを込め、浦戸桂島・UR・山形大学学生協働で海の家オープン！

お知らせ

1. 文部科学省の人材育成費補助事業に山形大学が選定されました
2. 「蔵王でミニワールド体験—国際交流実践講座—」を実施します
3. 人文学部講演会「台湾は本当に親日的か」
4. 山形大学・福島大学・秋田大学・宮城教育大学合同展「ROUTE 13展」を開催します

(参 考)

○ 次回の学長定例記者会見(予定)

日 時：平成27年8月4日(火)11:00～11:45

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス事務局棟4階)

平成27年 7月21日
山形大学

トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム（第3期）に学生が採用されました

（独）日本学生支援機構が募集した、官民協働海外留学支援制度「トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム」の派遣留学生に、第1期・第2期に続き本学の学生3名が選ばれました。

◆制度概要

官民協働海外留学支援制度「トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム」は、平成26年度から（独）日本学生支援機構が実施している新たな事業。文部科学省との連携及び「グローバル人材育成コミュニティ*」に参画する企業からの支援により、“産業界を中心に社会で求められる人材”、“世界で、又は世界を視野に入れて活躍できる人材”の育成という観点から学生を募集し、留学を支援します。

対象：日本の大学、大学院、短期大学等に在籍する日本人学生等

派遣期間：28日以上2年以内

申請コース：①自然科学系、複合・融合系人材コース ②新興国コース
③世界トップレベル大学等コース ④多様性人材コース ⑤地域人材コース

支援内容：・諸外国への留学に必要な経費の一部を奨学金等として支給
・留学経験の質を高めるため、留学の前後に研修を提供
・留学後の継続的な学習や交流の場としての留学生のネットワークの提供

◆派遣概要

本学からは9名の学生が応募し、書面審査（一次審査）と面接審査（二次審査）を経て、以下3名の採用が決定しました。本学からは、第1期3名・第2期1名の採用に続く3期連続での採用となり、派遣留学生は合計7名となります。

・人文学部 2年 中村 剛大 英国 マンチェスター大学及びラオス PTP本社へ 12ヶ月間
（新興国コース）

・工学部 4年 内部 錦 アメリカ合衆国 ボーリンググリーン州立大学へ 6ヶ月間
（自然科学系、複合・融合系人材コース）

・大学院理工学研究科（工学系） 1年 秋本 和紀 アメリカ合衆国 アキレスアメリカ支社へ
12ヶ月（自然科学系、複合・融合系人材コース）

今後、事前研修を受けた後、採用された留学計画に基づき、本年9月から来年9月下旬まで留学先に派遣されます。（独）日本学生支援機構からは、留学準備金（事前・事後研修参加費）及び奨学金等が支給され、派遣終了後は、事後研修を受けるほか、留学後の継続的な学習や情報交換及び交流を可能とする「留学生ネットワーク」に参加することになります。

*グローバル人材育成コミュニティ

平成25年6月に閣議決定された「日本再興戦略～JAPAN is BACK～」等において『高校・大学等における留学機会を、将来グローバルに活躍する意欲と能力のある若者全員に与えるため、留学生の経済的負担を軽減するための寄付促進、給付を含む官民が協力した新たな仕組みの創設』の趣旨により、（独）日本学生支援機構のもとに創設されたもの。企業、国、（独）日本学生支援機構、大学等、学生等の参加が計画されている。

（お問合せ先）

小白川キャンパス事務部学生課留学支援担当
電話 023-628-4119

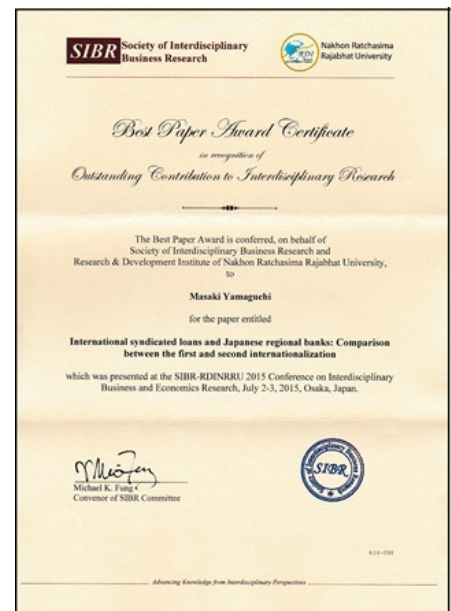
平成 27 年 7 月 21 日
山形大学

山口昌樹准教授が国際学会から Best Paper Award を受賞

7 月 2-3 日に大阪で開催された国際学会 SIBR-RDINRRU 2015 Conference on Interdisciplinary Business and Economics Research において、山口昌樹准教授が発表した論文が Best Paper Award を受賞しました。

7 月 3 日に山口准教授が発表した論文のタイトルは ” International syndicated loans and Japanese regional banks: Comparison between the first and second internationalization ” です。本研究は大きな注目を集めている地方銀行の国際業務を分析しました。国際業務は地銀の成長戦略と密接な関わりがあるため、このトピックは地銀にとって高い重要性を持っています。国際業務の中でも収益への貢献が期待される国際シンジケートローンに本研究は取り上げました。地銀の第一次国際化と第二次国際化とについて参加案件を比較し、国際シ・ローン市場における地銀の貸出構造の特徴を探りました。

山口准教授の研究分野は国際金融論で、国際銀行業における競争を中心に研究を続けています。今回の受賞論文は地方銀行による国際シンジケートローンへの参加という最新の動向を取り上げたものであり、地域経済の縮小によって困難に直面することが予想される地方銀行が成長分野として期待できる国際シンジケートローン市場でどのような行動をとっているかをデータから明らかにしました。



※SIBRとは？

正式名称は Society of Interdisciplinary Business Research です。現実の事業活動について学際的なアプローチから研究・分析することを目的とした学会です。今回の Osaka Conference には 2 日間の日程において世界各国から応募された 120 本程度の研究報告が行われました。

(お問い合わせ)
学術研究院・准教授 山口昌樹
電話：023-628-4799

平成27年7月21日
山形大学

農学部生産機械学研究室が 「FOOMA JAPAN2015アカデミックプラザ」で表彰されました

2015年6月9日（火）～12日（金）に「FOOMA JAPAN2015(国際食品工業展)アカデミックプラザ」が東京ビッグサイトを会場に開催され、本学部生産機械学研究室の佐藤慈仁さん（大学院農学研究科修士2年）の「フキ用皮むき機の開発（第2報）」がFOOMA AP賞を受賞しました。

◆本催しの概要

一般社団法人日本食品企画工業会が主催し、食品、食品機械・装置及び関連技術に関する研究発表の場として毎年開催。関連する研究分野から約60研究室がポスターセッション形式で発表を行い、特に優秀な発表にはFOOMA AP賞が授与されました。

◆発表概要

「フキ用皮むき機の開発」

山形県の特産農産物であるフキは主に水煮などに加工して出荷するため、農産加工所に運び込まれて作業者がフキを一本ずつ把持しながら株もとの皮を包丁で軽く切削し、切削した皮を手で把持して株もとから先端に向かって剥離する皮むき作業が行われており、作業の効率化が臨まれています。

そこで本学と鶴岡市のガオチャオエンジニアリング(株)では、フキを垂直方向にセットできる機構に加え、フキを中心として多方向からエアを噴射できる多頭式エアノズルを組み込んだ試作皮むき機械を開発しました。試作機は重力がフキの繊維と同じ方向に作用するため、たわみや皮の絡まりが発生しにくくなり、かつ圧縮空気がフキ全体に作用して均一な皮むきが可能と推測し、性能評価実験を行いました。

その結果、試作機では一定レベル以上のエア流量を確保するとともに、エアノズル数を減らしてノズル1つあたりの圧力を増加して圧縮空気の分散を防ぎ、圧力をより集中できることで効率的にフキの皮を剥くことができることを確認しました。



発表者の佐藤慈仁さん
(大学院農学研究科生物生産学専攻2年)

(お問合せ先)

学術研究院・准教授 片平光彦
電話 0235-28-2904

「フキの皮むき機械の開発」について

1. 目的

フキは日本伝統の山菜として需要が高く、春から初夏は季節ものとして生食に、通年で水煮などの加工品として出荷されている。フキは山形県で開発されたセル育苗栽培技術などと組み合わせることで長期の出荷が可能になるため収益性が高く、過疎化の進む中山間地域の農業振興に有望な作目である。しかし、平成25年のフキ生産は作付面積の対前年比が92%と全国で減少傾向にある。この原因は収穫や調製作業などの重労働に加え、高齢化や若年労働力の減少に起因するため、調製作業の効率化が課題になっている。現在フキの皮むきは作業者がフキを一本ずつ把持しながら株もとの皮を包丁で軽く切削し、切削した皮を手で把持して株もとから先端に向かって剥離する。本研究室がフキの加工工場で行った調査では、1時間あたりに1人の作業者がむくことのできるフキの量が約13kgであり、作業能率の向上が必要である。そこで、本研究ではフキの加工作業を効率化することでフキの出荷量を増加させ、農商工が連携した6次産業化による地域の活性化を目的に、機械の開発に必要なフキの基本特性調査と調製用機械の試作、その性能評価を行った。

2. 実験方法

(1) 試作皮むき機の概要

試作皮むき機はフキを垂直方向にセットできるようにし、フキを中心にして周りにエアノズルを複数個配置できるノズル取り付け部を開発した。また、試作機は前年度の試験を基に、エアノズルをフキに対して30°の角度で取り付けした。ノズル取り付け部は、エアコンプレッサから供給される圧縮空気を最大4か所から流入できる構造になっており、それを介して最大6個のエアノズルにエアを分配する。なお、流入口数とエアノズル数は変更可能である。

(2) 圧力分布の測定

エアノズル取り付け部の圧縮空気流入口数とエアノズルの取り付け個数を変更し、圧縮空気の圧力と圧力分布を調査した。測定には圧力分布測定システム(ニッタ株式会社, センサーシート: 75, ソフトウェア: I-SCAN Ver.5.87)を使用し、センサーごとに毎フレーム0.01秒で700フレームの条件で圧力(MPa)を計測した。

3. 実験結果

試作機から噴出するエア圧力は0.08N~0.35Nであり、フキの皮を剥くことに必要な3.14Nの力を確保できなかった。エアの流量は、 $Q=C \times A \times V$ と $V=(2 \times P \div \rho)^{1/2}$ (Q: 流量 (m³/s), C: 流出係数, A: 断面積 (m²), V: 流速 (m/s), P: 圧力 (Pa), ρ : 流体密度 (m³)) で算出されるため、ノズル数を増やすと一つあたりの流量が低下して、圧力が低下した。そのため、試作機では一定レベル以上のエア流量を確保するとともに、エアノズル数を減らしてノズル1つあたりの圧力を増加して圧縮空気の分散を防ぎ、圧力をより集中できることで効率的にフキの皮を剥くことができることを確認した。

平成27年7月21日

山形大学

地域で活躍する学生サークル紹介

～山形大学フリーペーパーサークル Y-ai!～

「地域創生」をビジョンの1つとする山形大学では、学生サークルが地域で様々な活躍をしています。今回は、「フリーペーパーサークルY-ai!」をご紹介します。

Y-ai!(ヤイ!と読みます)は、山形大学公認のフリーペーパーサークルです。私たちのような若い人目線で山形のまちづくりに貢献をしたいという願いから平成25年1月に11名で立ち上げました。

「山形をもっと、もっと元気に」をコンセプトに、今では1年生～4年生の総勢約30名で、山形の魅力を発信するフリーペーパーを作成しています。ちなみに男子部員大募集中!

現在は、第7号を発刊するため企画・取材・編集・撮影・モデル・広告営業に勤しむ毎日です!

山形大学内や山形市内(県民会館、まなび館、ゆうキャンパス等)でもしY-ai!を見かけたら、手に取っていただけると嬉しいです!

フリーペーパーを通して、山大生はもちろん、地域のみなさんとのつながりを感じています。

お店やイベントの広告を載せたい、アルバイトの募集をしたいなどのご相談も受け付けています。まずはお気軽にご相談ください。



(お問い合わせ先)

小白川キャンパス事務部学生課

電話: 023-628-4121

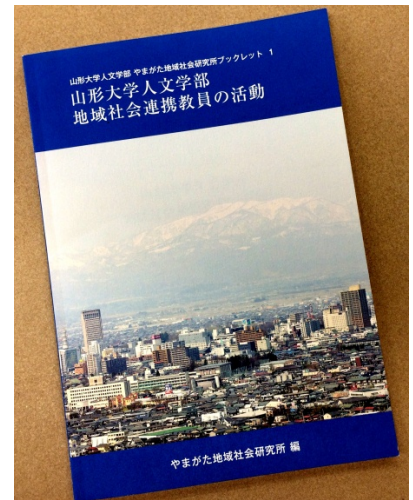
「多様で有能な教員」を地域の皆さまにご紹介します

このたび、山形大学人文学部附属やまがた地域社会研究所ではブックレット 1 として『山形大学人文学部地域社会連携教員の活動』を発刊しました。

山形大学人文学部附属やまがた地域社会研究所(※)では、『山形大学人文学部地域社会連携教員の活動』を創刊することにより、山形大学人文学部が有する多様で有能な教員を地域の皆さまにご紹介します。

第一部では山形県内(河北町、長井市、航空機産業、東根市)における地域社会連携教員の活動を紹介し、第二部では「地域社会連携教員の活動リスト」として 33 名の専門分野のほか、具体的な活動内容を掲載しています。

内容等については、まだまだ不十分なものではありませんが、皆さまの人材探しのお役に立つよう編纂・発刊したものです。今後とも改善していく所存ですので、このブックレットをご活用いただくとともに、ご意見をお寄せいただければ幸いです。

**※「やまがた地域社会研究所」について****[概要]**

2014 年 6 月 18 日設立。所長；國方敬司教授、所員；8 名。
人文学部内に研究所を設置

[目的]

- 1 地域社会を対象とする活動や研究が特に進んでいる学部として少子高齢化の問題に総合的に取り組み、地域課題を解決する学部として広く認知されることを目指す。
- 2 全学組織の地域関連事業に学部として対応していくための窓口となり、各種コーディネーターからの要請に対応できる環境を作る。
- 3 自治体や団体などが個別に抱える具体的課題に対し総論的な理論提示に終わるだけでなく、調査研究を実施し問題点を解決する。また、課題解決と関わって、必要な場合には補助金事業の申請手続き支援なども担っていく。



國方敬司所長・教授

(お問い合わせ)

やまがた地域社会研究所

副所長・教授 山田浩久

電話：023-628-4246

Mail: hyamada@human.kj.yamagata-u.ac.jp

学生の観光提案が観光プランとして商品化されました

このたび、山形大学人文学部の学生が現地調査をもとに考案した上山市の観光提案が、月岡ホテルの観光プランとして商品化されることとなりました。

山形大学人文学部の山田浩久教授は、大学 COC 事業の一環として、平成 25 年度及び 26 年度において山形県上山市に対する学生参加型の現地調査を行い、地域課題に対する解決策を学生達に考えさせる講義を行ってきました。それぞれの年度の研究成果はすでに本学人文学部叢書として発刊されていますが、現地報告会（本年 3 月）に参加された月岡ホテル様（上山市新湯 1-33）から学生の観光提案を商品化してもよいというお話を頂き、4 月から月岡ホテル様と学生達との打合せを重ねて参りました。学生は大学のレポート作成と観光商品の企画書作成との違いを学びながら、6 月に最終案を提出し、今月ようやく 2 つのコースが商品化されるはこびとなりました。今後も月岡ホテル様のご協力を賜りながら、学生の提案を商品化していく予定です。

今回の活動をきっかけに、学生の観光業に対する意識は大いに高まりました。卒業後の進路として、観光業を希望する学生も現れています。教室での講義だけでは得られない、現地体験による地域課題の発見やそれらに対する解決策の提案は学生達を一回り成長させました。なによりも、自らが考案した観光提案が実際の観光商品として採用されたことは、彼らの大きな自信につながりました。



（お問い合わせ）

やまがた地域社会研究所

副所長・教授 山田浩久

電話：023-628-4246

Mail: hyamada@human.kj.yamagata-u.ac.jp

平成27年7月21日
山形大学

県教委との連携のもと5学部で

アカデミック・キャンプ 2015 Summer 開催！

本年度締結した山形県教育委員会との連携協力協定の一環として、県内高校生を対象に、大学で実施している課題探求型の学習体験を通して、「大学で学ぶこと」の意義について考え、進路意識の向上につなげるなどの動機付けを図るとともに、山形で学び続けることの魅力に深く触れてもらうことを目的とし、5学部で「アカデミック・キャンプ2015 Summer」を開催します。

<開催概要>

社会でイノベーションを起こす人材の育成をめざし、本学教授陣&アドバイザー学生の指導のもと、大学施設等を利用した課題探究型の取り組みを通して成長をめざす、合宿形式のプログラムです。

主に地域に密着した題材を取り上げ、各学部ごとに特色あるテーマを用意し、講義、実験、実習、グループ学習、プレゼンテーション等を実施します。

◎ 小白川キャンパス () 内は募集人員

人文学部 (20名) : 8月6・7・17日「パブリックアートについて考える」

「少年犯罪に関する報道のあり方について」

地域教育文化学部 (30名) : 8月17・18日「大学と一緒に将来を考える」

理学部 (25名) : 8月3・4日「理学のチカラを感じてみよう！」

◎ 米沢キャンパス 工学部 (40名) : 8月6・7日「技術革新の担い手は君だ！」

◎ 鶴岡キャンパス 農学部 (30名) : 8月2・3日「鶴岡を知り、農学を学ぶ夏！」

<申込方法>

7月23日(木)までに、各高等学校を通して申し込んでください。

※ 県内高校1、2年生対象。3年生も申込可。応募者多数の場合は1、2年生優先。

(お問合せ先)
エンロールメント・マネジメント部
担当/西谷・鈴木・福島
TEL/023(628)4063

平成27年7月21日
山形大学

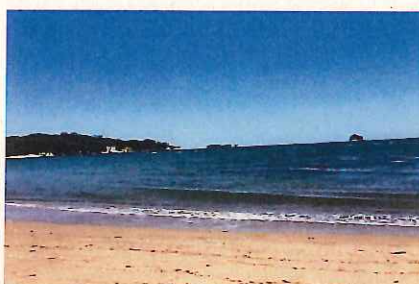
山形大学学生の継続的被災地復興支援活動

復興の想いを込め、浦戸桂島島民・UR（独立行政法人都市再生機構）・山形大学学生協働で「海の家」をオープン！

◇7月20日（祝・海の日）、東日本大震災の被災地塩釜市浦戸桂島の復興支援のため、桂島島民、UR、本学有志学生・教職員の協働で、桂島海の家「かもめん家」（かもめんち）がプレ・オープンしました。

◇日本三景松島の唯一の有人島である浦戸四島の一つ桂島では、2014年震災後初めての海開きを行いました。宮城県で4番目の海開きに、多くの海水浴客を集めました。100メートル限定の海開きと1店舗のみの海の家で、おもてなしの想いを伝えきれませんでした。

そこで、今年度は、海浜清掃活動を協力実施し150メートルの海開きと、現地災害公営住宅等の建設に当たっているURがスーパーハウスを始め業務用設備等のインフラを寄付し、本学有志教員が運営にかかる初期投資を行い、有志学生達が店舗マネージャーや運営支援者として参画し、元民宿経営者等の経験豊かな島民を雇用するスキームで、海の家をオープンさせました。



◇開店期間は、7月24日（金）～8月16日（日）を予定しています。

◇桂島産魚介を使ったあなご飯やわかめラーメン、笹かまの元祖塩竈の笹かまを使ったおでん、塩竈名産の藻塩を使った焼きそばや焼き鳥等の特産品にこだわったメニューです。

◇7月25日（土）は、本学周辺の東部地区住民のみなさんと桂島海水浴場応援ツアーも開催します。



◇これまでの浦戸諸島での復興支援活動について

2011年6月18日から、2011年度～2015年度基盤教育科目「実践的キャリア教育学」「現代社会を生き抜くためのプレゼンテーション学」「実践的コミュニケーション学」受講生を中心に、有志学生、山形のNPO法人や企業等との協働のもと、のべ2,000名以上が復興支援活動に参加。2012年2月には「浦戸桂島復興連絡協議会」を発足させ、観光再生を含む復興プランの策定等を目的に、これまで38回の会議を継続開催。2011年から毎年浦戸諸島桂島観光再生ツアーも継続実施中。



(お問い合わせ)
【授業担当教員】
エンロールメント・マネジメント部
教授 福島 真司 (ふくしま しんじ)
(TEL) 023(628)4061 / 090(7134)7099
(e-mail) shjnji-fukushima@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
【学生代表】
山形大学農学部食料生命環境学科
4年 近藤 瞳 (こんどう ひとみ)
(TEL) 080-1166-7644
(e-mail) kondohitomi74@gmail.com

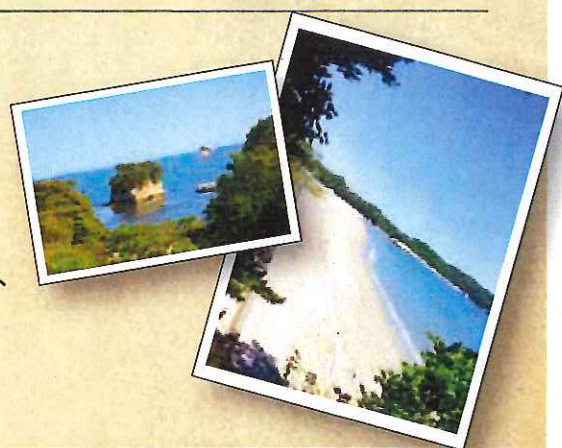
山形大学復興支援プロジェクト！

離島での 日帰り海水浴ツアー

参加者募集！

日本三景松島の景色を堪能しながら、
海水浴を楽しみませんか!?

東部地区公民館、山形大学と東日本大震災の被災地宮城県塩竈市浦戸桂島は、
震災後、復興支援活動を通して、交流を続けてきました。
海水浴を再開し、元気を取り戻しつつある日本三景松島の一つ「浦戸桂島」で、
この夏の最初の思い出づくりに、海水浴を思いっきり楽しんでみませんか？
ぜひご家族連れでお越しください！



7/25^土

参加費

大人1,500円
子供500円

往復バス代
市営汽船代
旅行1日保険料
込み

7:35 東部公民館 集合

7:45 東部公民館 大型バスにて出発

9:30 マリンゲート塩竈 塩竈市営汽船にて出発

9:53 塩竈市浦戸桂島棧橋 到着

10:00 桂島のハイキングコースの清掃作業ボランティア

11:30 **海水浴!** (昼食は海の家にて、ご自由にお取りください)

14:31 桂島棧橋 塩竈市営汽船にて出発

14:54 マリンゲート塩竈 到着

15:30 マリンゲート塩竈 大型バスにて出発

17:00 東部公民館到着 解散

■申込締切日

7/21^火 18:00まで

なお、先着 **35** 名ですので、
お早めにお申し込みください！

■申込先

募集型企画旅行 (有) 山形 E 旅
営業時間 月～土 9:00～18:00

TEL : 023-681-3139

FAX : 023-681-3159

email : mail@yamagata-etabi.com

■問合先

山形大学 教授 福島真司

TEL : 090-7134-7099

Email : shinji-fukushima@

jm.kj.yamagata-u.ac.jp

主催：募集型企画旅行 (有) 山形 E 旅

企画：山形大学浦戸諸島桂島観光再生プロジェクト

桂島へ

行こう！

※わせねでや、かつらしま。

日本三景である松島には四つだけ、人の住む島（浦戸四島）があります。そのうち本土側に最も近い桂島。夏ににぎわう海水浴場、大きな花火の夏祭りなどなど！桂島の魅力を語ります！

※わせねでとは、宮城のことばで「忘れないうでね」という意味です。

宮

城県塩竈市の浦戸諸島 桂島は、日本三景 松島に浮かぶ島々の一つ。松島の絶景を、島から見ることが出来る数少ない島です。

たくさんさんのウミネコが出迎えてくれる塩釜市営汽船に乗って桂島へ。夏は多くの人で賑わう海水浴場、野鳥の鳴き声が聞こえてくるハイキングコースなどの豊かな自然、そしてあたたかな島の人々が待っています。

ぜひ一度、桂島を訪れ、日々の疲れを癒してみたいいかがでしょうか？



↑ハイキングコースを抜けると桂島海水浴場



↑ハイキングコース



桂島 徒歩		JR 仙台駅		高速バス		JR 山形駅前	
塩釜市営汽船	約25分 500円	JR本塩釜駅	約30分 320円	JR仙台駅西口	約70分 930円	JR山形駅前	
桂島 徒歩	約10分	徒歩	約5分				
合計運賃 1,750円(片道) ※車の場合:マリンゲート塩釜に駐車場有(100円/1時間)							

7月18日(土)

◎海水浴場オープン!

海の家も18日より営業スタート!朝8時から16時まで営業しています。オススメは中華そば。とりがらだしのあっさりスープで昨年の人気No.1!また今夏は、桂島特産品を使った料理を提供する海の家も25日(土)より新規オープンする予定です!



桂島の周辺には、伊達政宗が物流の拠点として使用していた「船入島」、島の穴に波の音が鐘のように響く「鐘島」などたくさん無人島があります。歴史好きの方にもおすすめです。

8月13日(木)

◎桂島夏まつり

毎年1000人もの人たちで賑わう恒例の島の行事。一番の見どころは、なんといっても花火大会!島の人が、一発一発、想いをこめて打ち上げます。場所は桂島市営汽船のりば目の前。花火大会後は臨時便を出版予定。詳細は、塩竈市 浦戸振興課(022-361-7710)まで。山形から応援隊として、「山形芋煮カレーうどん寄せ」、「大曾根餅つき保存会」、山形大学学生も参加。オール山形で盛り上げます!



桂島海水浴場にて 7月25日(土) 桂島×山形のコラボイベント開催!

山形大学学生、山形市東部地区住民のみなさんと島内遊歩道の清掃ボランティア作業やNPO法人山形自立支援創造事業会「みちのく屋台こんにやく道場」の冷やし「玉ゴン(玉ゴンと煮卵のコラボ)」の販売等を行います!この機会に、ぜひ桂島へ!

Facebookページ「浦戸諸島桂島観光再生ツアー」でも、情報発信中です。要チェック!

浦戸諸島桂島観光再生ツアー Facebook

検索



平成27年7月21日
山形大学

1. 文部科学省の人材育成費補助事業に山形大学が採択されました

女性研究者の上位職への登用促進等を目的とする人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」に、山形大学の提案が選定されました。

詳細は別紙「通知資料」をご覧ください。

2. 「蔵王でミニワールド体験—国際交流実践講座—」

グローバル社会に対応する取組の一つとして、山形大学のサテライトがある中国、ベトナム、インドネシア、ケニア、ペルー、ラトビア、タイの7か国から留学生を本学に受入れ、山形大学生と相互理解を深める「蔵王でミニワールド体験—国際交流実践講座—」を実施します。

詳細は別紙「通知資料」をご覧ください。

3. 山形大学人文学部講演会「台湾は本当に親日的か」

日時：7月28日（火）16:20-17:50

場所：人文学部 205 教室（定員：104名）

講師：酒井 亨 氏（金沢学院大学、元共同通信社記者）

詳細は別紙「チラシ」をご覧ください。

4. 山形大学・福島大学・秋田大学・宮城教育大学合同展「ROUTE 13展」を開催します

日時：8月7日（金）～8月12日（水）10:00-17:00（最終日のみ12:00まで）

場所：山形県芸文美術館 ギャラリー1（七日町NANABEANS 5F）

参加費：無料

詳細は別紙「チラシ」をご覧ください。

以上

平成27年7月21日
山形大学

文部科学省の人材育成費補助事業に山形大学が選定されました。

女性研究者の上位職への登用促進等を目的とする人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」に、山形大学の提案が選定されました。

平成27年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」に選定されました。

1. 連携型事業の目的

- ・連携機関で、ワーク・ライフ・バランスに配慮しつつ共同研究等を行うことを通じて女性研究者の研究力向上を図り、上位職への登用を進めるとともに、研究環境のダイバーシティ実現に取り組む。

2. 連携機関

- ・代表機関 山形大学
- ・共同実施機関 大日本印刷株式会社 研究開発センター
山形県立米沢栄養大学

3. 取組の概要

- ・「有機エレクトロニクスを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画」をテーマに、既に連携を進めている3機関が女性研究者支援体制を整え、より積極的に女性研究者の参画を促し、研究力を強化する取組を行う。
- ・共同研究に従事するライフイベント中の男女研究者の研究を支援する。
- ・女性が代表となる共同研究への研究支援を行う。
- ・ライフイベントによる研究中断から復帰する男女研究者への研究支援を行う。

4. 事業期間・経費

- ・平成27～32年度（6年間）、原則として29年度まで3年間補助金交付
- ・補助金は、原則として年間6,000万円を上限

（お問合せ先）

山形大学男女共同参画推進室

電話：023-628-4937/4938/4939

E-mail:y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

平成27年7月21日
山形大学

「蔵王でミニワールド体験—国際交流実践講座—」を実施します

グローバル社会に対応する取組みの一つとして、山形大学のサテライトがある中国、ベトナム、インドネシア、ケニア、ペルー、ラトビア、タイの7か国から留学生を本学に受け入れ、山形大学生と相互理解を深める「蔵王でミニワールド体験—国際交流実践講座—」を実施します。

◆概要

このプログラムは、各国の事情、文化、習慣等の違いについて相互理解を深め国際感覚を養い、様々な交流活動を通してコミュニケーション能力の向上を図ることを目的に実施しているもので、今年で4回目となります。

今年は「災害と技術」というテーマに基づいた交流を行います。本学が有する有機エレクトロニクスを代表とする研究資源を題材にした意見交換や宮城県の被災地訪問を行うことで、日本の技術理解を深めます。

◆プログラム内容

期 間：平成27年8月26日（水）～9月3日（木）

参加者：留学生 19名（男子8名、女子11名）

【内訳】 延辺大学（中国、3名）、ベトナム国家農業大学（ベトナム、3名）
フエ大学（ベトナム、2名）、ガジャマダ大学（インドネシア、3名）
ジョモケニヤッタ農工大学（ケニア、2名）、カトリカ大学（ペルー、2名）
ラトビア大学（ラトビア、2名）、チェンマイ大学（タイ、2名）

山形大学 17名（男子7名、女子10名）

【内訳】 人文7名、地域教育文化5名、理3名、工1名、農1名

予 定：8月26日（水）開講式、キャンパスツアー、国際相互理解

8月27日（木）講義、ディスカッション

8月28日（金）視察（山形放送 訪問）、日本文化体験（花笠踊り）

8月29日（土）～30日（日）ホームステイ

8月31日（月）有機エレクトロニクス研究センター 見学

9月 1日（火）宮城県塩釜市 被災地訪問（桂島フィールドワーク）

9月 2日（水）感想発表、閉講式

※詳細は裏面参照

（お問合せ先）

山形大学教育・学生支援部
国際交流課 長南，岩崎
電話 023-628-4118

<平成27年度ミニワールド体験プログラム「震災と技術」スケジュール>

※内容は変更となる場合があります。

	8月25日(火)	8月26日(水)	8月27日(木)	8月28日(金)	8月29日(土)	8月30日(日)	8月31日(月)	9月1日(火)	9月2日(水)	9月3日(木)	
テーマ		オリエンテーション	被災	日本文化体験(ホームステイ)			復興		防災		
9:00	来日	山大事務局前集合	【国際相互理解2】 「各国の課題と展望」 ディスカッション	【視察1】 「震災報道の実際・ 山形放送」	ホームステイファミ リイとの対面式	【日本文化体験3】 ホームステイ	山大事務局前集合 米沢市へ移動	宮城県塩釜市へ移動 マリンゲート塩釜 昼食	山形市へ移動	離日	
10:00		開講式 オリエンテーション 自己紹介					【講義2】 「復興への新技術・ 有機エレクトロニク ス」		【視察2】「山形大 学有機エレクトロニ クス研究センター」		【グループ学習】 「防災・日本の被災 を自国でどう生かす か？」
11:00		キャンパスツアー 昼食									
12:00		昼食	昼食	【講義3】 「日本産業の復活」 (米沢市青年の家)	【振り返り】 「山形大学の先端技 術」 ディスカッション		昼食				
13:00		【国際相互理解1】 「各大学・学部紹 介」 ディスカッション	【講義1】 「東日本大震災と市 民生活」				【グループ学習】 「日本語の基本・ ホームステイに備え て」	【日本文化体験2】 ホームステイ	【発表】 「防災・日本の被災 を自国でどう生かす か？」		
14:00			【国際相互理解3】 「自国の災害と防 災」 ディスカッション	【日本文化体験1】 「花笠踊り・四面楚 歌」 第2体育館2階	【日本文化体験3】 ホームステイ		【発表】 「防災・日本の被災 を自国でどう生かす か？」				
15:00		憩親・憩談会 (厚生会館)						フリータイム	フリータイム		フリータイム
16:00			フリータイム	フリータイム	フリータイム		フリータイム				
17:00		フリータイム						フリータイム	フリータイム		フリータイム
18:00			フリータイム	フリータイム	フリータイム		フリータイム				
19:00	フリータイム	フリータイム				フリータイム		フリータイム	フリータイム		
20:00			フリータイム	フリータイム	フリータイム		フリータイム			フリータイム	
宿泊	ホテルα1 (留学生のみ)	ホテルα1 (留学生のみ)				ホテルα1 (留学生のみ)		ホテルα1 (留学生のみ)	ホームステイ (留学生のみ)		ホームステイ (留学生のみ)

山形大学人文学部講演会

台湾は本当に 親日的か

台湾人が「親日であること」と、日本の一部の人たちが期待する「親日であること」にはズレがある。
在住11年半の経験談を交えて台湾社会を解説する。

講演者 **酒井 亨**（金沢学院大学）

元・共同通信社記者。退職して台湾に移り、民進党政権の現場を
観察しつつ台湾関連の著書や論文を執筆。

2015年7月28日(火)
16:20～17:50
人文学部205教室

お問い合わせ
人文学部事務室 023-628-4203
jisoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



ROUTE 13

山形大学 福島大学
秋田大学 宮城教育大学 合同展

2015年8月7日(金)～8月12日(水)
10:00～17:00 (最終日のみ～12:00)
ギャラリートーク 8月12日 11:00～

山形市七日町NANABEANS 5階
山形県芸文美術館 ギャラリー1
Twitter @13_route
代表連絡先 080-6048-9572